

名前：

私は、新聞や雑誌の必要がなくなるとは考
えない。今まで使っていたものが使われなく
なることへの違和感からというだけではなく
、紙媒体であることに意義を感じるからだ。
歴史を振り返ってみると、字が発明されて
以来、様々な形で書きしるしてきた。木簡や
パピルスといった、今では使われなくなっ
た媒体も存在し、その意味でいっか紙も情報伝
達手段として使われなくなると考えることが
できるかもしれない。
しかし、過去と現在においては、大きく異
なるところがあると思う。それは情報に対する価
値観の変化である。過去においては、情報を
得るだけ長く、そして容易に伝えることに
主眼が置かれ、その結果より丈夫に、一方で
より軽く、加工がなされることで現在のよう
な紙による伝達に行きついていると考えられ
る。その点においては、インターネット等を
通じて用いられる情報にかなうものはないだ
ろう。インターネットを通じてどこでも見ら

れるという便利さを持ち、保存、修正の利便
性も格段に優れるからである。
現在においては、表現の多様性の意義がま
ずより高まり、ここに価値観の変化がある。
利便性のみに関われば、紙媒体の意義は見
えてこない。紙媒体による情報伝達は、おし
ろインターネットに頼らないものとして新た
な重要性を見出されるようになるだろう。イ
ンターネットの整備が間に合わない地域での
重要性はもちろぬのこと、整備ができている
地域においても、情報の発信者などの媒体を
用いるのかを選択する時代がやってくるだろ
う。新聞や雑誌という紙だからこその質感や
活字印刷のみがもつ魅力がある。それを全く
無視し、その利便性のみを追いかけることは
もうなくなっているはずである。
今後新聞、雑誌はインターネットによる
情報と並存するだろう。